

切手偏見



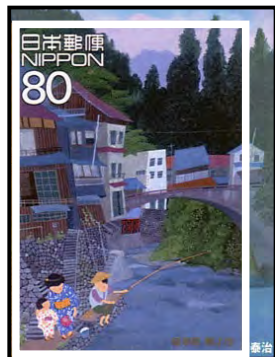
昨年からふるさと切手の発行が整理され、まともな切手が少しは見られるようになった。そんな中、偏見フィルターに気になる切手が見られた。原田泰治氏原画の「ふるさと心の風景シリーズ」の切手である。一連のふるさとを描き、ほのぼのとしたものを感じさせる画である。

しかし、30センチ四方から60センチ四方の原画が切手にふさわしい画であろうかと感じた。切手の宿命、画像の緻密さと縮小の問題を感じさせるシリーズであった。このシリーズに負わされたこの宿命の解決には会報30号にふれた切手の「美の壺」「カットに秘密あり(トリミング)」もポイントであろうかと、シリーズ切手40枚のうち35枚の原画高精細複製画が販売されているホームページを知ったので原画がどのようにカットされたのか覗いてみた。(http://www.torinome.net/sell/sell_list_kitte.html、なんと郵便局の通販ショップにリンク、3万~36万円で販売) 原画を知り得た切手のうち、カットなしで切手になっているのは4枚だけであった。他の31枚は上下、左右、方向の位置は不定で10%から70%の部分がカットで除かれてしまっており、原画の「ふるさと」のイメージとはかなり異なる感じになった切手が散見された。このようにカットせざるえない、カットすれば問題を感じざるえない画を切手の対象とすることは議論されてしかるべきであろう。具体的に、これら切手を原画に当てはめてみました。会員諸兄姉に評価していただければ幸いです。

更にカットに加えて、原画に新たに対象を加えて切手にしたものが存在した。それは第2集福岡県朝倉郡「小さなスーパー」である。原画にはない郵便配達のアートバイが切手には描かれている。次ページの様に原画の下方に道路を描き、郵便配達を加えたのであろうか。

このようにカットがどのようになされているかを確認していると、過去に発行された多くの切手が国宝、重要文化財等の芸術性の高いものを対象にカットをしていることを思い、その原画を探し出すことを試みた。有名な絵画、絵巻等であれば容易であるが、苦勞するものがほとんどであった。この原画が探しで痛切に感じたのが切手カタログの無力さである。せめて表題、作者、所蔵している機関が記載されていることが望まれる。教養の無い

切手が国宝、重要文化財等の芸術性の高いものを対象にカットをしていることを思い、その原画を探し出すことを試みた。有名な絵画、絵巻等であれば容易であるが、苦勞するものがほとんどであった。この原画が探しで痛切に感じたのが切手カタログの無力さである。せめて表題、作者、所蔵している機関が記載されていることが望まれる。教養の無い



- 左上 横長の画を縦の切手にカットした
第1集 川越市「時の鐘」
- 右上 ふるさと風景シリーズの中で
一番カットを大胆にしたと思う
第1集 香川県池田町「心の海」
- 左 あえてカットのしないで、
原画のままではと、思わせる
第1集 郡上市「夕涼み」
- 左 横長の画を縦の切手にカットした
第1集 松本市「七夕人形」



観音菩薩像



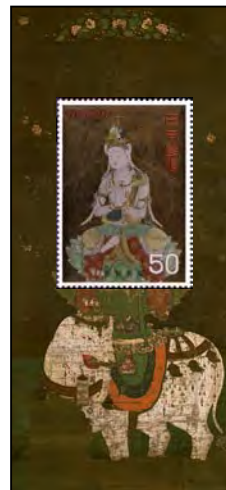
黒き猫図

わが身にとってはカタログの図柄説明が唯一の手がかりということが普通である。幸い、現在はネットで検索ができるが、皆様も経験されているように、カタログの図柄説明の単語で検索しようものならネットオークションの切手が数多くヒットしてしまい、本来の絵画、工芸品をそこから検索するのに神経と時間をとられてしまう。

最初に、絵画そのものが目的に発行された近代美術シリーズ切手に取り上げられた原画をながめてみた。正確さにやや不安があるが、すべて原画を確認できた。これら原画と切手を比較するとさすがに美術品対象切手だけに前述した「ふるさと心の風景シリーズ」の切手とは異なり32枚のうち、カットをされてないもの24枚、わずかに上下をカットされたもの6枚、カットがかなりなされたものが2枚あった。その2枚は菱田春草「黒き猫図」と富岡鉄斎「観音菩薩像」であった。この2枚は掛け軸様のものなのでカットは不可欠な原画となるのか。

次に、国宝シリーズの中の絵画関係をながめてみると対象が仏画、屏風と対象が大きく、カットは避けて通れない対象物であるだけに逆にカットが重要性を増してくるものであろう。いくつかをながめていただきたい。絵画関係25枚のうちほとんど原画のままと思われるものは吉祥天像、源頼朝像、釣便図、紅白梅図屏風等にかぎられ、他はかなりのカットがなされている。屏風絵はかなり大胆にカットがなされそれぞれの作品の美しさを示すことの難しさを感じさせる。

対して、絵巻物は一絵巻に画像が多く、対象とする場面を選択して、縦の長さを制限されているカットという、屏風とは異なる難しさがあることが忍ばれる。国宝の絵巻をイメージさせる切手ということでカットがより重要な役割を担っていることが理解できる。



普賢菩薩



納涼図屏風



松林図屏風



濡標図屏風



信貴山縁起絵巻



紫式部日記絵巻

次に、非常に多く切手になっている浮世絵について見ると、国際文通週間の広重・東海道五十三次、北斎・富獄三十六景の絵はカットなしと、とらえられるが、これら風景浮世絵が他の

特殊切手に用いられると大きくカットと加工がなされている。具体的に見ると全画面を切手に使用（東海道線電化完成）、縦横比を変えた画にデザインを加える（国際地震サミット）、風景画の一部を切り取った画にデザイン（国際ロータリー大会、20世紀・箱根駅伝と新幹線）、切り取った部分のみのデザイン（江戸開府400年）などの形態があるようだ。ここで注意しておきたいのが江戸開府400年シリーズでカットされた広重の日本橋の画である。これは広重の意に反して版元が売上を考慮して後刷りした画であり、初版は1962年国際文通の画、これを使用すれば下に見るように、落ち着きのある、渋い切手が発行されていたことであろう。同じ作者の異なる版の画が切手になっている珍しい例であろう。同じ浮世絵でも、美人画の方は大きくカットされているものは鳥居清長の

雨傘と大川夕涼み図などあるが少ない。

このように切手の原画を調べていると同一絵画等が異なる目的での切手に別々にカットされているものがいくつか存在することに気づかされた。

先ず、切手趣味週間と国際文通週間にカットされ、すべての人物が切手に描かれた婦女遊楽図屏風（松浦屏風）である。6曲1双の右隻を2曲と4曲に切り離して発行されている。左隻の方の10人の婦女はカットの難しい構図であるので切手には難しかったか、と考えられた。次に、京都・養源院の俵屋宗達描く唐獅子図杉戸絵がライオンズクラブ関係の記念切手に四半世紀の間隔を



広重 東海道五十三次 由比

なる版の画が切手になっている珍しい例であろう。同じ浮世絵でも、美人画の方は大きくカットされているものは鳥居清長の



婦女遊楽図屏風（松浦屏風）右隻



広重 東海道五十三次 日本橋 初版



広重 日本橋 後刷り

置いて用いられていることにも気づかされた。

次に、同じ原画で多くの切手がカットされているのが酒井抱一の絹本着色・四季花鳥図巻上巻、下巻14mである。1997年国際文通週間の3枚と700円普通切手1枚の4枚の切手である。4枚の切手で下巻7mの中の約1m50cmを使用しただけであり、今後も使用されるであろう。



北斎 富嶽三十六景 相州梅沢庄



広重 東海道五十三次 小田原



広重 東海道五十三次 箱根



養源院 唐獅子図杉戸絵



酒井抱一 四季花鳥図巻下巻一部と切手部分

上巻の方は郵政公社設立記念切手の10枚の切手に使用されている。縮尺の割合は10枚それぞれ異なり釣り合いの良い状態で切手になっている。しかし、1枚切手のカットの仕方に目が留まった、どうも原画と異なるのである。通称、「牡丹と芍薬と蝶」と記されているシリーズ10番として記されている切手である。下に示すように蝶が牡丹にどう見ても近づき過ぎているのである。



酒井抱一 四季花鳥図巻下巻一部の画像
東京国立博物館情報アーカイブ画像番号 C0035819



上記絵巻よりカットされた郵政公社設立記念切手
河骨とパン 改ざん?された牡丹と芍薬と蝶

蝶の位置が異なることは明らかである。酒井抱一のような著明な画家の作品を借用カットだけでなく、改ざん、加工して切手にしたことをはじめて目にして複雑な思いである。縮小率を少し上げることではダメであったのか。仮に許されるとしてもどこかに明記すべきであろう。明記で気になっていたことがある。カットして切手にしたことを明記した切手が2006年以降、趣味週間切手をに増えてきたが40枚弱と少ないが存在する。江戸開府400年記念17枚のうち11枚に、そして、興味深いのが三の丸尚蔵館の所蔵の絵画が7枚が切手に用いられているがその内の6枚には恐れ多いか、部分を切手にした旨、明記されている。また、多分1枚だけだと考えるが、合成した旨を明記した切手が存在す



雪村の松鷹図

雪村の松鷹図の凹版切手のカットを見ると掛軸サイズなので上下がカットされている。対の一方の松鷹図もグラビアで1974年に国際文通週間の切手になっている。同じ印刷方式で同じ種類の切手として発行されていればと、悔やまれる原画カットの例である。

普通切手に多く見られる工芸品には馴染みが薄いものが多く、改めて切手を知らないことを



痛感させられる。例えば、「中尊寺華鬘」といわれ120円切手3種類に描かれるもの、「法隆寺金銅小幡」といわれ70円切手に描かれるもの等がどのような工芸品



からカットされているかご存知の方は少ないであろう。このように「ふるさと心の風景」切手への疑問は切手が発信している情報とカットに対する無関心さを反省させられた。同時に、この

中尊寺の金銅宝相華文透彫華鬘という仏具

ように過去の多くの美術品をカットし、切手に描いている国があるのかなと、新たな疑問を抱いた。

最後に、今回切手の建築物を除く文化財の原画を求め400点余徘徊し、現時点で一番大胆にカットされて切手になったと思われるものをご紹介します。これは部分カットというより探索、発見、採取、という言葉の表現がふさわしい感じがします。江戸名所図屏風が出光美術館で公開の折は単眼鏡、図録であればルーペをお忘れな

江戸開府400年記念
江戸名所図屏風極小部分



くお探してください。
(編集子)